

2020年7月11日

第1回講演会報告

広報担当 谷田耕三

7月8日(水) 13時30分よりナディアパーク6F 市民活動推進センターにて行われました。参加者は34名でした。

新型コロナ流行が一段落して、考える会の今期最初の講演会です。

講師は大同大学教授 大東憲治氏

演題は「名古屋の堀川・新堀川の水質改善対策とその経済的価値」です。

大東教授は、名古屋市内を流れる運河の水質浄化に関する研究、県内の地盤環境データベースの整備、濃尾平野の地盤沈下防止と地下水資源利用の管理計画など環境に関する研究を幅広くされています。

講演は次の三つの項目に分けて話していただきました。

- ・話題1ー堀川の水質変化の原因分析
- ・話題2ー高濃度酸素水の河床注入による新堀川の浄化実験
- ・話題3ー仮想評価法による環境改善便益評価 ー名古屋市新堀川を例としてー

・話題1では水質については、ヘドロの堆積状況や水の流れに非常に関係があり、ヘドロの分解方法にはエアレーションとバイオ製剤の併用に効果がある。

・話題2では2014年に新堀川で行われて話題になった高濃度酸素溶解装置による浄化実験について詳しく説明をいただき、6か月の実験期間で水質や臭気、魚や鳥などの生態系に改善が見られた。

・話題3 仮想評価法とは環境を守るために支払っても構わない金額を尋ねることにより環境の持っている価値を金額として評価する手法で、私にははじめて聞いた言葉でした。アンケートで調査するもので、結果は新堀川に関心が高い人は支払い意思額が高いことが分かった。つまり支払い意思額を高めるためには新堀川の現状を知ってもらう機会を多くする必要のあることが考えられる。

今回の講演会を今後の考える会の活動の参考にしたいと考えます。

